

第64回

新宿区景観まちづくり審議会

平成30年4月13日

新宿区都市計画部景観・まちづくり課

第64回新宿区景観まちづくり審議会

開催年月日・平成30年4月13日

出席した委員

**松川淳子、後藤春彦、窪田亜矢、野澤康、秋田典子、坂井文、安田望、浅見美恵子、
大浦正夫、福井清一郎、和田総一郎、阿部光伸、谷川一美、土屋晴仁、藤川裕子、新井建
也**

欠席した委員

なし

議事日程

1. 報告

[報告] 新宿TOKYU MILANO再開発計画について

2. その他

議事

午後 1時59分開会

○後藤会長 全員おそろいということですので、若干、1分程度早いですけれども、ただいまから第64回新宿区景観まちづくり審議会を開会いたします。

本日の出席状況及び配布資料等について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（景観主査） それでは、事務局でございます。よろしくをお願いいたします。

本日は全員ご出席いただいております。委員の過半数が出席しておりますので、新宿区景観まちづくり条例施行規則第39条第2項により、本審議会は成立いたします。

本日は、新宿区景観まちづくり相談員の**進藤相談員、竹内相談員、金田相談員**に事務局としてご出席いただいております。相談員の皆様には、事業者や設計者と景観事前協議を行うなど、技術支援を頂いております。

次に、本日の進行と配布資料等についてご確認いたします。

本日の進行については、配布しました次第のとおりでございます。

続きまして、資料についてご確認をお願いいたします。

まず、机上配布資料として、次第、こちらは裏面に委員名簿を記載してございます。新宿区景観まちづくり条例、そして同条例施行規則、新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドラインと改定版、新宿区景観形成ガイドライン 屋外広告物に関する景観形成ガイドライン、そして、今回の議事内容とも関係がございまして「歌舞伎町シネシティ広場周辺地区 大規模建築物等に係る特定区域景観形成指針」につきまして、今年の11月に当審議会でご審議いただきましたが、今年の1月に東京都より認定を受けましたので、お配りをしてございます。こちらは各委員専用のものがございますので、ご自由に書き込み等していただくなど、ご活用ください。

なお、審議会の閉会後に事務局で保管いたしまして、今後、審議会を開催する際、机上に配布させていただきます。もしお持ち帰りされる場合には、次回の審議会の開催の際にお持ちくださいますようお願いいたします。

次に、既に送付済みの資料について確認させていただきます。既に送付済みの資料として、報告資料1「新宿TOKYU MILANO再開発計画」、続きまして、報告資料2「新宿TOKYU MILANO再開発計画に関する歌舞伎町シネシティ広場周辺地区デザイン会議意見について」。

お配りしております資料は以上でございます。

なお、審議会は公開となっております。また、傍聴の方はご発言ができませんので、ご了承ください。

最後に、ご発言に当たって、マイクの使い方のご説明をさせていただきます。お手元にマイクを設置させていただいておりますが、そちらのボタン、右から二つ目の「要求4」というボタンを押していただきますとマイクの先端が光りますのでご発言をいただきまして、終わりましたら一番右の「終了5」というボタンを押していただきますようお願いいたします。

事務局からのご説明は以上となります。

それでは、議事にお入りいただきたいと思っております。

後藤会長、どうぞよろしくようお願いいたします。

1. 報告

【報告】新宿TOKYU MILANO再開発計画について

○**後藤会長** それでは、議事に入りたいと思っております。

本日は、次第に記されておりますように、報告が1件でございます。

新宿TOKYU MILANO再開発計画について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課長） 事務局です。新宿TOKYU MILANO再開発計画について、ご説明いたします。

本計画につきましては、景観事前協議書が提出され、現在協議を行っております。本日、この審議会でもいただきましたご意見を踏まえ、今後も引き続き協議を進めてまいります。

また、本計画は「歌舞伎町シネシティ広場周辺地区 大規模建築物等に係る特定区域景観形成指針」の適用区域内における大規模建築計画であることから、本指針で定めました運用体制に基づき、歌舞伎町シネシティ広場周辺地区デザイン会議を2回開催しております。

本日はまず、事業者及び設計者より資料1についてご説明をいただき、その後、事務局より資料2についてご説明させていただきたいと思っております。

それでは、事業者及び設計者のご紹介の後、資料1についてご説明いただきたいと思います。

本日は、事業者としまして、株式会社東急レクリエーション様、東急電鉄株式会社様、また、設計者としまして株式会社久米設計様に来ていただいております。

それでは、説明のほうをお願いいたします。

○東急電鉄（田島） 初めまして、東急電鉄の**田島**と申します。

本日は、前半戦というか最初のほうを私のほうからご説明させていただき、景観のデザインに関しては久米設計からご説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず、画面をご覧くださいいただければと思います。私からは、今回の開発の計画の概要をご説明させていただきます。

まず、国といたしましては、観光を我が国の基幹産業へという上位計画がございます。

次に、東京都といたしましては、緊急整備地域の中で、商業、文化等の集積により回遊性のある観光・交流拠点を形成するということが位置づけられております。

新宿区様といたしましては、世界のエンターテインメントシティ歌舞伎町のまちづくりの推進が位置づけられております。

このような中、歌舞伎町と本計画地のポテンシャルについて整理をいたしました。

一つ目としては、まちのレガシーと基盤です。歌舞伎町は大衆娯楽文化を核とした官民連携ということで、町会長鈴木喜兵衛さんと東京都の都市計画課長であった石川栄耀さんの連携によりまちづくりが始まりました。基盤といたしましては、屋外広告ですとかT字路を生かした迷宮的楽しさと回遊性を追及した基盤があるということと、歴史的には、東急レクリエーシ

ョン社含めて興行4社と歌舞伎町商店街振興組合の方々による、エンターテインメントを産業構造の中核に据えたまちづくりが推進されてきました。現在に至っては、文化的にも連綿と小規模なライブハウスとかシアターとかが残っているというところと、観光といたしましても、東京都の中でも都内一の外国人観光客が訪れるという、トップクラスの観光拠点となっております。

そのような中、本計画地の中においては、敷地規模としては東宝さんに次ぐ歌舞伎町エリアで最大級の敷地規模になってございます。また、立地に関しましても、シネシティ広場の正面に位置しておりまして、歌舞伎町エリアの中心にあるということが言えると思います。

このような中、これらを受けまして、歌舞伎町の拠点性とか文化発信力のさらなる充実と強化によって、世界のエンターテインメントシティ歌舞伎町の実現に貢献する計画を考えてまいりました。

下のところがその計画のコンセプトになりまして、一つ目が、まちの核となる新たな都市観光拠点をつくるということ。二つ目が、まちの回遊性とにぎわいを創出する都市観光インフラ、都市観光の基盤をつくっていきたいと思っています。

一つ目のコンセプトの具体的な点として、多様な滞在交流機能、エンターテインメント機能を導入した開発を行っていくというところと、もう一つは、シネシティ広場と一体となったにぎわい空間の形成ということで、今回は屋外劇場的都市空間形成を検討してまいりました。

二つ目のコンセプトについては、交差点の改良、補助72号線、西武新宿駅前通りの交差点の改良とバスルートの形成、もう一つは、西武新宿駅前通りが大久保と新宿エリアを結ぶ観光道路の軸として考えられますので、そのリニューアルを今回の特区で行ってまいりたいと考えております。

詳しくは、このページの記載にありますとおり、上層部に宿泊施設というところで、ホテルを700室程度考えてございます。その下に映画館として、今現在のところ8スクリーンの映画館を考えております。その下に劇場、劇場は約850席程度を考えております。その下に商業等を今現在検討しておりまして、真ん中に大きな絵がございまして、屋外ビジョンと屋外ステージとシネシティ広場を一体的に考える新宿区様の上位計画である屋外劇場的都市空間の形成と、リムジンバスベイを1階に設けてまいります。

一番右側に図がございまして、これが西武新宿駅前通りの整備と、新宿職業安定所周辺も西武新宿駅前通りと一体となったリニューアルを行ってまいりたいと考えております。

以上が計画のコンセプトになります。

次からは、お手元の資料でご説明をさせていただければと思っております。お手元のA3判の資料の6ページからスタートさせていただければと思います。

私がお説明しましたのは、6ページ目の上段の上位計画ですとかエリア特性とか周辺分析というところをお話しさせていただきました。この開発のコンセプトに沿って景観のコンセプトのほうを、これから久米設計の方からお説明をさせていただきます。

○久米設計（井上） 引き続き、景観のコンセプトのほうからお説明させていただきます。

お手元の資料6ページの下段の部分になります。

今お話ありましたように、都市観光の拠点をつくるということで、その目的地となる「ディステーションの視覚化」というのが景観のコンセプトになります。

下に方針が二つ書かれておりますが、新しい歌舞伎町のシンボルをつくっていくということと、まちに開かれたデザインによりにぎわいの景観をつくっていくということが大きな方針になります。これらの内容につきまして、もう少し詳しく説明してまいります。

1枚めくっていただきまして、資料7ページになります。

まず、こちらに計画の概要を書いております。

上のほうに計画の主な概要が書いておりますけれども、延べ床面積が約8万5,800平米になります。地上40階、地下5階、約225メートルという計画になっております。

下のほうに断面図、断面構成図がありますが、先ほど、中身について説明ありましたけれども、大きく、上のボリュームと下のボリューム、二つの構成になっております。下のほうに、基壇の部分に主にエンターテインメントの機能が入りまして、高層部に宿泊機能という構成になっております。

ちょうどシネシティ広場を見る断面図がございますけれども、広場に対しまして屋外ビジョン、屋外ステージ等を整備して、一体的に活用していくという形を考えております。

あわせて、右にありますとおり、西武新宿駅前通りのリニューアルですとか、職安通りの交差点のリニューアル、こういった整備もあわせてしていくということになります。

上にスケジュールがあります。2019年の春を目指しまして、現在、設計と、あと許認可のほうを進めていく予定でございます。その後、工事に入りまして、2022年に竣工という計画になっております。

1枚おめくりください。ここから、全体の外観デザインについてご説明いたします。

ちょうど右にあります絵が外観のイメージになっております。歌舞伎町の新しいシンボルとして、大きく二つのデザインモチーフを重ね合わせております。

その説明は左側に書いております。

一つ目がグランドホテルというイメージです。

ヨーロッパの都市など、昔からまちの中心広場に建つグランドホテル、そこがいわゆる市民の皆さんのハレの場になる、そういった都市の社交場でございます。新時代のグランドホテルとして、広場と一体的に歌舞伎町の新しいハレの場となるような思いを重ねております。

建物デザインとしてグランドホテルの建物構成やモチーフを取り込んでおります。エントランスとしての足元の構えですとか、基壇部のエンターテインメント機能、ホテル機能の高層部、そしてシンボル性のある頂部と、こういった重なる構成、こういったものをグランドホテルのイメージで考えております。

それと、もう一つが水のイメージです。かつて敷地の周辺では水が湧き出ており、花道通りを沿って川が流れておりました。また、近隣には水の女神、弁財天が祀られています。建物に水の勢いが噴水のように天に伸びるイメージを重ねてデザインしております。

男性的な西新宿高層ビル群に対し、新しい歌舞伎町のシンボルとして、女性的でもあり、やわらかなイメージとして、誰もが訪れやすい歌舞伎町というものにしていきたいと考えております。

中層部は映画館や劇場など、壁で塞ぐような機能が多いのですが、ロビーなど、そういった人のにぎわいが生まれる場所はできるだけ外に見せて、にぎわいのまちづくりに貢献したいということでデザインしております。各所にテラスも設けて、そこでのにぎわいが出てくると。広場に対して「見る－見られる」の、そういった関係が生まれることを考えております。

低層部はフレーム形状による個性的な構えをつくって、まちなみを整えながら、その内側でビジョンですとか情報発信、あと店舗、そういったものがにぎわいをしみ出させるというデザインにしております。旧ミラノ座の高さですとか色彩の雰囲気、系統なども、イメージを歴史・記憶の要素として継承してまいっております。

次のページをごらんください。

夜間も来街者を迎える新しい景観というものをつくっていきたいと考えております。絵にありますような、頂部の発信力のあるシンボル性のある光、それと、低層部のほうはライトアップ等により新たな景観を演出していきたいと考えております。あとは、エレベーターですとか、下のお店周りですとか、そういったところでできるだけ人の動きやにぎわいを見せていきたいと考えております。

右のほうに建物の断面の構成図がございます。上層部へ向かう段状の壁面後退により、周辺

への圧迫感を低減していくということを考えております。

続いて、10ページをごらんください。

こちら、左の上の写真が遠方から見た新宿周辺の様子になります。ちょうど赤字で「計画建物」と書いたところが今回の建物になるんですけれども、ほぼ新宿西口の超高層ビル群と調和するようなスカイラインで考えております。

一方、下の絵にありますように、周辺にあります東宝ビルですとか新宿プリンスホテル、それとアパホテル等の高さにはほぼ合うような形で、本建物の基壇部も高さをそろえているという構成になっております。

それと、右側にございます下にある写真が、新宿駅方面から実際にどう見えるかというものを重ね合わせた図になっております。さまざまな眺望点からの見え方を検証していく中で、やはり観光客が起点となる新宿駅からの見え方を意識しております。

もう一枚おめくりください。11ページのほうになります。

広場と一体的ににぎわいをつくっていくということで考えております。

下のイメージスケッチをごらんください。ちょうど広場に対しまして屋外ステージと屋外ビジョン、こういったものを整備しまして、民有地と公有地が一体となった屋外劇場的都市空間をつくっていきたいと考えております。

右側には、それらを運営していく組織体の図を描いております。エリアマネジメントの取り組みと連携し、イベント等により市民交歓の機会を創出してまいります。公開空地の活用主体として、新たにまちづくり団体を組成します。まちづくり団体及びエンターテインメント施設を運営する目的で組成されるエンタメ新会社が、既存のエリアマネジメント組織、歌舞伎町タウン・マネジメントと連携していきます。

続いて、12ページになります。

こちらは主に西側、西武新宿通り側のイメージを載せております。テラスですとかお店ですとか、そういったものにぎわいが少しでも見えてくるようにということで考えております。

左下のイメージスケッチなんですけれども、少しエスカレーター周りを強調した描き方になっておりますけれども、いろいろご意見いただく中で、全体にもう少し立面的な要素をそろえながら、こちら辺、この西面を表現していきたいというふうに考えております。

続いて、13ページをお願いします。

こちらに足元周りの配置図があります。周辺にみどりを配置しながら、あと、空地ですね。少しまとまった空地を四隅のほうにとりながら、にぎわいを補完していきたいということで考

えております。

また、特に気をつけているのが、ちょうど右端に絵を載せておりますけれども、歌舞伎町のまちづくりの特徴でありますT字路、T字の部分にアイストップをつくっていくと。ちょうど路地を歩いていったその正面にこの建物が見えるときに、しっかりとアイストップをつくっていくということを意識しております。一番下にありますFのイメージですと、壁面に広告ですとか情報発信、こういったものをして、しっかり目をとめてもらおうと。あと、Dのイメージでいきますと、ちょうど上に動くためのシースルーエレベーター等があるんですけども、そういうエレベーターの動き、こういったものもずっと見えてくるというようなことを考えております。ほかにも、空地で行われる活動ですね。アクティビティ、大道芸ですとか、そういったものも目にとまるようにという思いで設計をしております。

次、14ページ目、こちらで最後になります。

こちらが、1・2階を示した図になっております。ちょうど西武新宿通り側とシネシティ広場側を結ぶ形で、重層的に貫通の経路をとっております。1階に貫通通路を設けて人の流れをつくってあげるのと、建物内を歩いて抜けていく、そういった動線をつくりながら整備していきます。ちょうどこちらの貫通通路にはバスもとまれるようになっておりますので、全体としてまちのエントランスという形で、しっかりデザインしながら整備していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○事務局（景観・まちづくり課長） 続きますので、事務局より資料2についてご説明をさせていただきますと思います。

お手元の資料、資料2、A4の1枚でございます。こちらの資料をごらんください。「新宿TOKYU MILANO再開発計画に関する歌舞伎町シネシティ広場周辺地区デザイン会議意見について」でございます。

本計画につきましては、東京都景観条例第19条第1項の規定に基づく「歌舞伎町シネシティ広場周辺地区 大規模建築物等に係る特定区域景観形成指針」の適用区域内における大規模建築計画であることから、本指針で定めた運用体制に基づき、歌舞伎町シネシティ広場周辺地区デザイン会議を以下のとおり開催し、意見を徴してございます。

第1回会議としまして、平成30年2月13日に開催をいたしました。

議題が「施設計画と景観形成の考え方について」でございます。

意見概要としまして、①広場に面する大型ビジョンについて、シネシティ広場との一体性や、

広場を囲む他の壁面との連動を見据えた上で、適切な規模、配置を精査すること。

②歌舞伎町の文脈を踏まえたデザインコンセプトを建築物の意匠へ反映させるよう、昼景、夜景ともに検討を進めること。

③低層部のフレームについて、用いる素材や実際の見え方を踏まえ、フレーム形状の検討を進めること。

④シネシティ広場の今後の活用の方向性について、歌舞伎町タウン・マネージメントとともに検討を進め、地域全体で広場の魅力を高めるための取り組みを先導する計画となるよう努めることとございます。

また、第2回会議としまして、平成30年3月29日に開催をしました。

当初、デザイン会議につきましては1回を予定してございましたが、何点か宿題等が出されまして、2回目を開催してございますので、議題としましては「第1回会議における意見を踏まえた検討状況について」となっております。

意見概要としまして、①低層部フレームの曲線形状について、半円を用いたアーチ状のフレームと角を丸めた四角形を用いたフレームが混在していること、また、フレームの開口高さが統一されていないことから、形状や開口高さを統一するなど、整然とした見え方となるようデザインの検討を進めること。

②シネシティ広場をイベント開催時のみだけでなく恒常的に人でにぎわう場としていくため、エリアマネジメントの取り組みと連携しながら、ハード面・ソフト面の両面から総合的に検討を進め、屋外劇場的都市空間の実現に資する計画となるよう、歌舞伎町タウン・マネージメントと密接に調整を行うこと。

③第1回、第2回デザイン会議での意見に対し、今後も設計の深度化に合わせ検討を進め、事務局との協議を継続して実施すること等とございます。

事務局からの説明は以上になります。

○**後藤会長** どうもありがとうございました。

続いて、景観事前協議の状況につきまして、担当の相談員の方々からご説明をお願いします。

最初に**進藤相談員**、お願いします。

○**進藤相談員** ご紹介いただきました相談員の**進藤**です。

当案につきましては、昨年8月、事前協議を、そして、今年の2月に対面協議と、合わせて2回のお話をお伺いさせていただきました。その際、検討をお願いしました点をご報告させていただきます。

まず、姿形を意味する形態意匠についてですが、ご提案では、先ほど、設計者からご説明がございましたが、水と女性というんですかね、女神という言葉も使われていましたが、これらをテーマに建物のデザインを展開されているということなんです、そのコンセプトを踏まえながら、ご検討を幾つかお願いいたしました。

建物を高層、中層、低層に分けてお話しさせていただきます。

まずは高層部ですが、建物のてっぺん、頂部ですが、王様の冠っていうんですか、クラウンのイメージと、水が湧き上がって噴水にしぶきを上げているという表現をあらわしているのではないかと思うんですが、その噴水の噴き上がった状況が、中層部、高層部と一体として感じるようなデザインをご検討していただきたいというのを、まずお頼みいたしました。

また、このしぶきのデザインは、中層部、約100メートル、地上から100メートルぐらいのところに中層部のトップがございいますが、そこにも同じデザインが踏襲されているわけですが、そのことを踏まえて、中層部にも一体感をぜひ出していただきたいとお願いいたしました。特に今計画の建物の特性を踏まえて、ということは、夜間、非常に利用者が多いだろうということ踏まえて、夜間の演出をぜひ考えていただきたいとお願いいたしました。

続いて、中層部ですが、中層部につきましては、先ほど、噴水の上昇感を連続的にあらわしていただきたいということに加えて、シネシティ広場からの見え方とちょうど反対側のJR線の車窓からの見えがかりの細かいプロポーションですとか、先ほどお話がありました、井上さんからお話ありましたが、エスカレーターの見え方とか、その辺をぜひ細かく再現していただきたいとお願いいたしました。

それから、中層部の壁面のあり方ですが、この中層部は幅が約60メートルで、高さが70メートル。たまたま横方向ではコーナーがアールがついていますから、若干やわらかいんですが、60メートルの70メートルというのはかなり大きな面なわけです。そして、その仕上げをお伺いしますと、プリントしたガラスが基本であって、凹凸の少ない平滑な壁面を基本的には考えておりますという回答がありました。ということで、かなり広場からは近く壁面を見ることになると思いますので、その近くから見ると目に対する目の優しさっていうんですかね、目への優しさを何かデザインに考慮していただけないかとお願いいたしました。

続いて、低層部につきましては三つのお願いをいたしました。

まず一つは、先ほど、3月29日のデザイン会議でも出たようですが、やはりデザインモチーフとなっているアーチについてです。

それから、2番目が貫通通路。建物のほぼ真ん中を走っている貫通通路についてです。

それから、3番目が大型ビジョンについて。

この三つについて検討をお願いいたしました。

まず、第1の低層部のアーチですが、先ほど、デザイン会議でありましたように、何か全体としての統一感がいま一つしっくりしてこないんじゃないかということで、アーチのモチーフを含めて、再度の検討を依頼いたしました。

ただ、低層部の構成は、アーチを形づくるメゾニンの壁のような素材ですけれども、それが透明感のあるものでつくるということで、非常におもしろいのではないかなと思っているんですが、そういった意味からも、なおアーチという形がきれいにおさまるような再考をお願いいたしました。

それから、2番目の貫通通路ですが、この通路は幅員が、歩道を含めてですが、約13メートルほど図面上ではございます。そうしたときに、この貫通通路が西武新宿駅側の通りとシネシティ広場を結ぶ通路になっているんですが、その通路が、たまたま隣が舞台になっておりますので、その舞台を使っているときはいいんですが、使っていないときはシネシティ広場に対して約40メートルの幅で、にぎわいのお店のようなのは見えなくなってくるわけです。たまたまステージの奥15、6メートル、広場から15、6メートル入ったところに店舗がございまして、やはりちょっと奥まった感じがあるので、もしステージを使っていない、そして貫通通路を足すと約40メートルの、何かにぎわい空間がそこで途切れてしまうんじゃないかっていう心配があるので、その貫通通路については何かもう少し縮めるとか、何か違ったお考えをさせていただけないだろうかというのを提案いたしました。

といいますのは、広場はよくにぎわいのある施設で囲まれているときに生き生き機能してくるということでもありますので、ぜひその辺を踏まえてお考えいただけないかと思っております。設計者は、屋台ですとかカフェテラスのような形で、使わないとき、にぎわいを演出していきたいというお話をいただきましたけれども、やはり気候が厳しい季節ですとかそういうときには寂しい空間になってしまうんじゃないかという気がしておりました。

そして、三つ目ですが、大型ビジョンについてですが、これは今回の計画で一番の売りの一つじゃないかなと思って拝見いたしました。

ただ、原案の大型ビジョンの位置ですが、直感として少し控え目で、言葉はなんですけれども、ちょっとこぢんまり、こぎれいにおさまり過ぎているんじゃないかなっていうふうな気がいたしました。もっと積極的に広場に近づいて、広場ともっと一体となって機能していただいとはいかがかなというのが本意でございます。

といいますのも、将来、広場の周辺を囲む建物が協力して、この1カ所だけじゃなくて四周に映像が取り囲むようなことになってきたとき、映像ができるだけ広場に近いほうが、よりその効果を発揮できるんじゃないかと思っています。そして、この連動した形の演出がマルチスクリーンで行われたときに、この映像というか、最初につくった今回の計画が非常に先鞭を、先駆けとして非常に意味あるものになってくるんじゃないかと。そして、こうすることが逆に、この広場を世界の映像の発信地というような形にして、多くの客を集めることができるんじゃないかというふうに私は思っておりました。新宿という世界で一番可能性のある、そういう可能性のある場所ではないだろうかと思っておりました。

最後に、みどりのあり方についてお願いをいたしました。

現在の案は、立体的に見えるみどりという植栽計画を展開されているようですが、まだ樹種などの細かい細部設計がなされていけませんので、ぜひ楽しみな形でそれを拝見させていただきたいというお願いでした。

以上です。

○**後藤会長** どうもありがとうございました。

続いて、**竹内相談員**、お願いいたします。

○**竹内相談員** 続きまして、屋外広告物の観点からご意見を差し上げております。

2月8日に対面協議、**進藤相談員**と一緒に対面協議をいたしまして、建築のコンセプトと、それから屋外広告物の考え方について、ご説明を受けました。

先ほど、**進藤相談員**のほうからもご説明がありましたように、特に大型ビジョンにつきまして、非常に今回、このシネシティ広場に向かって一体型、一体的に広場を利用していくという考え方で、まず先鞭を切って大型ビジョンを取りつけていくということ。これは、屋外広告物の今までのルールを超えて、この歌舞伎町で実現していこうというようなところでございますので、非常に力を入れているところでございます。

その方法論も、一つは、先ほどの話もありましたように、その配置計画、それから、その場所につきましても少し奥に入り過ぎているんじゃないかというようなところが、建築からの考え、見え方と、それから広場からの見え方ということを検討いたしますと、その辺の配置的な関係をもう少し検討していただけないかというようなことを申し上げております。

それから、特にコンテンツについて、中身ですね。どういう情報を流していくかということも非常に大切なところだと思います。この辺は歌舞伎町タウン・マネージメントのほうと検討して、今後詰めていくという内容でございますけれども、そこに出すやっぱり情報をどのよう

にコントロールしていくか。また、それをどのように魅力的なものにしていくかといったことも非常に重要なものではなかろうかなというところで、その内容検討もお願いしております。

それから、全体の広告物の計画につきましては、まず、やはり歌舞伎町の特徴でありますT字路からの見え方といったところをしっかりと考えていただきたいというところで、特に南側からアプローチしますと、ちょうどエレベーターのシャフトが正面に見えるような場所があるんですけども、その辺のところでは建築のコンセプトにある上昇感と、それから噴水のイメージというようなものを実現できたらよいんじゃないかというような内容のお話をさせていただきました。

さらに、西側の西武線の駅のほうから見た景観といったところも、こちらも屋外広告物が出てくるところで、少しシネシティ広場と比べると検討が弱いんじゃないかといったところで、検討を進めていただくというところでのお願いをさせていただきます。

全体といたしましては、そのほかへ出てくるサイン計画というところも重要だというふうに考えておりますので、この辺のところを建築と一体で早目に計画をしていただくようにというようお願いをさせていただきます。

私からは以上でございます。

○**後藤会長** どうもありがとうございました。

続いて、**金田相談員**、お願いします。

○**金田相談員** 金田と申します。

今、**進藤相談員**、**竹内相談員**のほうから、ほとんどのお話が出尽くした感じなので、私のほうから非常に補足的なこととか、例えばというお話をさせていただきました。T字路の問題であるとかアイストップのところ、それから周辺のコーナーのところのぎわいについて、いろいろ検討をするというふうになっております。それから、もちろんビジョンの使い方についても課題がまだあるということですが、その辺を検討するに当たっては、もう少し何か具体的なテーマで一度モックアップとか、サンプル的に、こういう場合はどういうことが考えられるか、そうするとこうなるんじゃないかというような進め方があっていいのではないのでしょうかということをお話しさせていただきました。それぐらいです。

ただ、今日もう一度改めて拝見して思ったんですけども、2月に一度対面させていただいたときから、もう一回ほぼ同じような資料を拝見していますけれども、何だかじわじわっと良さが出てくるような、そんな雰囲気を感じられまして、もしかすると、これのやはりオリジナリティが、だんだん理解が深まるとともにここになじんでくるというような期待感が非常にあ

りますので、これからも検討をしていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○**後藤会長** どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご意見、ご質問いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

では、**土屋委員**、どうぞ。

○**土屋委員** ちょっとお聞きしたいんですけども、今、VR ZONEというのができていると思うんですが、この一番下の部分のボリューム感というのは、敷地といい、高さといい、今のVR ZONEとほぼ同じようなイメージでしょうか。もっと大きいんでしょうか。

○**後藤会長** 基壇部のボリュームが、これまでのミラノ座とほぼ同じかどうかというご質問でしょうか。

○**土屋委員** そうですね。

○**後藤会長** いかがでしょう。

○**土屋委員** ミラノ座というか、今、VR ZONEというのができていますでしょう。

○**後藤会長** ええ、今ありますね。

○**土屋委員** それと周り駐車場になったりして、空き地もそこそこできていますよね。あれと同じなのかなと思ったんですけども。

○**久米設計（井上）** お答えいたします。

○**後藤会長** はい、どうぞ。

○**久米設計（井上）** 資料の9ページに、ちょうど配置図が、今回の建物用の配置図が右側に出しております。図面の上の側に一点鎖線の赤い点線がございます。こちらは、もともとのグリーンプラザの土地になっております。ここは現在、VR施設がこの範囲までかからずに、そこが今、駐車場になっておるんですね。そうしますと、現在のVR施設はちょうどこの一点鎖線の下側、内側になりますので、大きさとしては今回計画の建物よりきゅっと小さい形で今建っております。

○**土屋委員** なるほど。はい、わかりました。

○**後藤会長** ほかにいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○**阿部委員** では、今、概要確認させてもらいましたが、大きく2点まずありまして、これ、企画の側なんですけれども、ちょっと計画とは若干異なるんですけども、たまたまこの3月

に銀座にミッドタウン日比谷ができて、そこ、TOHOシネマズで11スクリーンで2,200席で、東宝ビルで600席、合わせて13スクリーン、2,800席といううたい文句で大々的にやっているんですね。今回、この場所はシネシティとシネシティ広場というシネマの大本山ですという感覚からすると、先ほど、8スクリーンという話があったんですけども、この広場に囲まれた、ほかの東宝さんのビルとか合わせて日比谷の13スクリーンを超えるような、その辺までの検証をなさっているかが1点。

あとは、景観的な話からいたしますと、建物の好みは別にいたしまして、やはり水のことをすごく強調して、ファサードにも手直しをさせているかと思うんですけども、私はこれ、第三者の本当の初めて見る人が、これで水ですかという感覚はないという気がしてまして。東宝ビルはゴジラというすごくアイコン、わかりやすいものがあつたりするんですけども、美女と野獣じゃないんですけども、野獣に対して美女であつて、それは噴水だと。噴水ならば、例えば1階の足元の、この映像があつて、それを見るときの床下の仕上げなんですけれども、例えば強化ガラスにして、下は全部水流して、水に照明が浮き上がったりして、下に何か水があると、でも、床の上は全部歩けるとか、そのぐらいの演出やつて、水という感覚を一回わからせたほうがいいかなって気がしました。場合によっては、そこは1階、噴水あつてもいいんですけども、ファサードの噴水という感覚で、グラデーションをつけてやっているんですけども、これはこれで好みで、あえて言うことはないにしても、世界という言葉が使われている形からすると、やはり屋上は第5のファサードなんですね。ということは、例えばグーグルマップでアクセスしたときに、この建物が何かわからないけどあるよねってわかるような、そういうしつらえといいましようか。形状が無理であれば、何かこのグラデーションの上に照明をつけて、夜間はそれぞれが移動し、グーグルマップでアクセスすると何かわかりますとか、そのぐらいの形でやつて、世界に発信するという形のものにできればなというふうには個人的には思いました。

最後になりますが、先ほど外観が、60メートル、70メートルがプリントガラスという話があったんですけども、やはりこれからの時代は全部ということで、エネルギーに関して非常に注意しなけりゃいけない形になるんですけども、そのCASBEEといいましようか、その辺の熱負荷低減化をどれだけ考慮しているか、それも聞きたいと思いました。

以上です。

○後藤会長 3点ご質問はあつたかと思ひます。いかがでしょう。

○東急レクリエーション（藤原） 東急レクリエーションの藤原と申します。本日はありが

とうございます。

ただいまのご質問につきまして、まず1点目の映画館のボリュームについてでございますが、ご指摘というかご意見ありましたとおり、向かいの東宝さんは12スクリーン、約2,300席ほどでございます。今回、我々ミラノ跡地の開発の計画では約8スクリーンというところです。

規模として、もう少しトライしてもいいんじゃないか、また、検討の中でどういった議論があったのかということだと思えますが、我々、もともと映画興行会社ということで東急レクリエーションでございますが、向かいの東宝さんには昔、コマ劇場も入っていたということで、やはり生もの（なまもの）、歌舞伎町には生もの（なまもの）が必要だろうという意見交換をまずチームの中ではやっておりました。また、小さい劇場もまだまだ元気であったり、また、ライブホールなんかも盛んだということで、我々としては、やはり複合のエンタメ・コンプレックスをつくっていききたいということで、シネマのみならず、今回計画、ごらんいただきますと、その下に約850席の劇場、これはまさに生ものをやる劇場ですね。また、地下にはライブホールということで、映画のまち、新宿は映画のまちで、また、シネシティ広場もシネマシティ広場の略でシネシティ広場だというふうに認識をしておりますので、シネマの需要はもちろんあるものの、映画館に頼らず、プラスアルファで、その下に劇場、ライブホールをつくることで歌舞伎町のエンタメに貢献していこうということで、今回こんな施設計画を考えた次第でございます。

以上でございます。

○後藤会長 続けて、2点目、3点目、お願いします。

○久米設計（井上） 計画のほうでお答えいたします。

1階周りで水の話ございまして、まさに皆さんが触れる足元でぜひ水をつくりたいという思いで今やっております、たまたま14ページの貫通通路の絵があるんですけども、14ページの右上に貫通通路の絵がございまして、今現時点で考えておりましたのは、ちょうど貫通通路は歩くところに壁面から水が出て、おっしゃっていたように、まさに足元にガラスを張って、その下を流れていくような様子、ちょうどそれがイメージとしては、花道通り側に昔流れていたというのがありましたので、それを視覚的にやったらおもしろいかなということで、今考え始めの絵を載せております。この辺、もっと深めながら、夜も演出したり、見える形で水を使っていきたいと考えております。

それともう一点、エネルギーの話で、CASBEE等遵守するような形で今やっております。ちょうど今回、特区という形で手続を進めておりますので、その中でも環境負荷の軽減ということ

を強く言われておりますので、その辺、行政とも協議しながら、しっかり今進めております。

以上でございます。

○**後藤会長** ほかにいかがでしょうか。

じゃ、**藤川委員**、どうぞ。

○**藤川委員** ご説明ありがとうございます。

二、三追加の質問ですけれども、シースルーのエレベーターがポイントっていうことであるんですけれども、そこからエレベーターを、ビル側を見るのではなくて、ビルのほうからの眺めというか、そういったことの魅力についてはどういうふうにお考えしているのかということが1点です。

私も日比谷のミッドタウンに行ってきたんですけれども、あそこはやはり日比谷公園のみどりがすごい借景としてすごくきれいに見えて、とても魅力的だと思いました。

あと、水のこともちょっと1点。流れる水のイメージが貫通通路のほうにあると言ったんですけれども、やはり噴水という、水しぶきというイメージがありますので、流れる水ではなくて、何かしぶきを連想するような、そういうようなものでもしこれからご検討できるのであれば、ちょっと検討していただきたいと思います。

あと三つ目に、映画だけではなくて劇場の、小劇場のにぎわいもということで、そういった小劇場、今はちょっと新宿よりも下北沢というイメージなんですけれども、そういったにぎわいを演出する、例えば芝居をやっているときの広告とか、のぼりを立てるか、何かわからないんですけれども、そういったスペース的な、広告を出すような部分が検討されているのかどうか、教えてください。

○**後藤会長** お答えいただけますでしょうか。

○**久米設計（井上）** お答えいたします。

1点目のシースルーエレベーターからの見え方ですね。まさに非常に大事なところだと感じておまして、今、ドローンを飛ばして景色をシミュレーションしながら、ちょうどやり始めているところですので、外を見るということを大切に考えております。

それとあと、先ほどの水のしぶきの話でございます。床のほうを先ほど強調した説明だったんですけれども、壁のほうで、今考えていたのは、壁のほうで水が少ししぶきを上げながら落ちてくるようなイメージも持ってはあったんですけれども、これから設計を深めてまいりますので、そういったしぶきですとか流れですとか、そういったものをぜひとも何か表現していければと思っております。

それと3点目の、中でやっている芝居ですとか、いろんな演目の雰囲気ですとか発信の仕方、これも非常に大事だと思っていて、広場を含め、周辺へのにぎわいの大切な要素でもありますし、しっかりそういう発信できるものがあるということのをうまく地域のにぎわいに使っていきたいと思っておりますので、その辺も深めてまいりたいと考えております。

○藤川委員 ありがとうございます。

○後藤会長 それでは、窪田委員、お願いいたします。

○窪田委員 ご説明ありがとうございました。

大きく2点なんですが、1個目が、「ディスティネーションの視覚化」というふうにおっしゃられていて、それがコンセプトだと。コンセプトというのは、要は実現したい価値っていうことだと思うんですけども、その「ディスティネーションの視覚化」が、今日は、超高層にすることでいろんな人を外から呼んでくるという話はすごくわかったんですけども、もう少し近くに来たときに、自分がどこでどういう滞留をするのかっていうことを一つおっしゃろうとしていらっしゃるのかなというふうに私は認識したんですね。特に冒頭のあたりでも、滞留ということが重要だと、広場の再生というのはそういうことだっという認識の中で、そういうコンテクストを読み込んだ上で、ここでもう一回新しいシネシティ広場をつくろうというふうに理解していたんですけども、それでよろしいかどうかっていうことを踏まえてなんですけれども、それでよろしいとすると、ここでどういうふうな滞留の仕方を広場なり建物の際なりでしていくのかっていうあたりがちょっとわからなかったもので、そこについて補足の説明をいただければというのが1点です。

例えばですけども、階段というのが非常に魅力的だなと思っていて、シネシティ広場に対して階段があって、11ページ図の中で階段がうまく劇場的、屋外劇場的都市空間の中で、こういう使われ方をするんだということもあるわけなんですけれども、もうちょっと多分日常の中では、階段の側に座って、まさに「見る－見られる」の関係みたいなものもあると思うんですけども、それがちょっとやりやすくなっているのかどうかというのがご説明いただければなど。

あともう一つ、例えば路面ですよ。水というのはすごく重要な話だと思うんですけども、ちょっと今のこの絵だと若干安っぽいインターロッキングみたいなものがあちこちに使われているような気が。これももちろんこれから深度化されるんだと思うんですけども、やっぱり敷地の中の舗装とかサーフェスの仕上げ方みたいなものというのが、非常に水みたいな大地と建物のつながりを表現するに当たっては重要なエレメントなのかなと思っております。もち

ろんこれから深度化されるってことであれば、その考え方もいいんですけども、そういうディステーション、視覚化するディステーションのもうちよっと、外からじゃなくて、もっとここに近づいたときに、どこに自分のディステーションがあるのかということをお訴えかけようとしていらっしゃるのかということのを、ひとつお答えいただきたいというのが1点目です。

それから2点目が、直接的には景観ではないのかもしれないんですけども、災害対応ですね。これだけどんどん超高層化していく中で、さらにここも超高層化されていくと、基本的にはもちろん建物の中に座っていただく。満席のときにも、基本的には映画だったりします。席があるってということかとは思いますが、でも、やっぱり出てきちゃう方々がたくさんいらっしゃるのではないかという気もしまして、そういった安全も確保した上でのやはりエンターテインメントかと思っておりますので、そこについても一言ご説明いただけたらなというふうに思います。

とりあえず以上で。

○後藤会長 いかがでしょうか。

○久米設計（井上） お答えいたします。

ディステーションという考え方としては、言っていたとおりのポリシーで今やっております。近くでやはり、今度自分がどう体験するかとか、どこに居場所を置くかというのも非常に大切だと思っております。

まず、割と閉ざしがちな今回の建物の用途で構成されているんですけども、そこにできるだけテラスですとか、ちょっと目の届くところに、「あれ、中で何かやってそうだな」という期待感、そういったものを持てるような、居場所にいざなわれるような、そういったつくりが心がけました。できるだけ低層部にテラスをつくったり、先ほどのお話にありましたステージの前の階段についても、今、パース上はただの階段がすーっと上がっているだけなんですけれども、実際の設計の詰めでは、今いろんなことを考えておまして、少し段の違いをいろいろつくりながら、歩ける場所だったり、座りやすく座りたくなるような場所、そういったものを織り交ぜながら、どちらかというと日常、先ほど、以前からアドバイザーの方の意見にもあったんですけども、イベントやっていないときにどう人をそこにとどめてあげられるかというのが大事だと思っておりますので、そこに座って、カフェで買ったものを食べたり、外国人の方がそこで地図を見ながらこれからどこへ行こうかとかって、そういうような場所をつくりたいということで考えております。

2点目の防災対応のほうなんですけれども、これも特区の手続の中でもかなり協議をして、今詰めてきたところですよ。用途的に大きな空間というのがございますので、今、地下のライブホールですとか幾つかの場所を、災害時にそこに人をとどめられるようにということで、空間と、あと、それに附帯する設備、それとあわせて、いろんなものを備蓄する倉庫、そういったものを整備することになっております。あとは運用で、それが不自由なく使えるようにというのは、継続して詰めていかなければいけないと思っております。

○窪田委員 いいですか、ちょっと。

○後藤会長 はい、どうぞ。

○窪田委員 ありがとうございます。

特に1点目のほうについては、今、深度化されていらっしゃるということなので安心したんですけれども、まさに階段の工夫であるとか、やっぱりあちこちにいい空間があるなというふうにおっしゃって、そういうふうにつくっていただくと非常にいいかなと思っております。しかも、エリアマネジメントの企画もされていらっしゃるのです。大概、いい空間をつくっても、そこ座らないでくださいみたいな話になったりするので、むしろそういうのを大歓迎するというような方向性を打ち出していただければなというのを思います。

それから、災害対応のほうも、もちろん地下に備蓄とかがあってというのはすごく重要なことだとは思いますが、多分そうなるときに、ここに集まっていらっしゃる方々が、おのずと良いふう動きやすくなっているということが結構重要なことだと思っていて、そういうおのずとうまくおさまるような仕掛けを何かしていただければなと思います。

すみません、ありがとうございました。

○後藤会長 どうもありがとうございました。

13ページの左の図の屋外ステージってところが、ちょっと階段の工夫を始めている様子がありますね。ちょっとアルコーブ状のようなものを重ねていこうという、そんな感じが一つのイメージですかね。

○久米設計（井上） すみません、1点。

○後藤会長 どうぞ。

○久米設計（井上） お答えし忘れて、路面の舗装です。これも当然これから深化させていただきます。今、絵で描いているのは、区道の舗装に少し合わせた形で一旦絵を描いております。それを協議しながら、また深めてまいります。

○後藤会長 新宿区仕様だという。

○窪田委員 そうですね。特にだから花道通り側とか、その下のほうのT字路でちょうど南から来て一度ぶつかる、その街区の外側。何ていいますか、内側のバスの貫通通路は多分あれでいいんだと思うんですけれども、そういう歩行者空間みたいなところはぜひ丁寧にやっていただければありがたいです。

○後藤会長 ありがとうございます。

坂井委員。

○坂井委員 ご説明ありがとうございました。

私、11ページの、広場と施設が一体にという、この計画の非常に重要な部分について質問させていただきます。

広場というのは、この右下の絵でわかるように、4面あるわけなんですけれども、1面だけを見るというのはほぼ物すごく間近になったときであって、大体3面見る。4面見るってことも不可能なんですけれども、3面見ることで広場というのは知覚されることが多いと思うんですが、特にこの場合ですね。そうしますと、こちらのアパホテルとその対面、この周りの建築をどの程度意識されて、今回、特に低層部の部分をやられたのかっていうのは質問の1点目です。

2点目は、同じ11ページの左上の、先ほど、**進藤相談員**のほうからもご指摘ちょっとあったんですが、つまり、屋外ビジョンがあるすぐ右横のアーチの1階部分というのは通り抜けできているんですね。アーチが二つ並んでいる。ここは取り抜けできていて、つまり、エレベーター、エスカレーターで上っていく、2階に上っていく右側二つが、かなり大きく穴があいている。これ、このスケールなんでよくわからないですけれども、実際、この絵でも赤いバスみたいのがちょっと見えたりしているんですね。やはり屋外ビジョンのところはちゃんととめがあって、観客を受ける、視線を受ける。そして、そこに向かっていただくエスカレーターがある。すぐその右横に大変大きな穴があって、これ、できると大きいと思うんですけれども、その穴が二つある。それが向こう側まで、鉄道側まで貫通しちゃっているので、かなり雰囲気的にも抜ける感じは否めないと思うんですね。やっぱりここを、多少上側に何か遮蔽物をつくるとか、少しサイズをダウンするようなことを考えていただいたほうが、より広場との一体感ということにスケールのなるというふうに考えていますので、このちょっと抜けのところを考えていただきたいなというふうに思いました。

あと、最後ですけれども、これは中景・遠景の話ですけれども、水ということはキーワードになっていますが、やはり鉄道側のところについているエスカレーターの、大きなボックスのようなものがぼんついているという感じは否めないで、水が流れる全体を、非常に高いと

ころから水が流れる美しいことを意識して、そのシースルーでエスカレーターが見えるみたいな、何かそんな感じにできないのかなというのも一つ、考えていただきたいポイントの一つです。

以上です。

○後藤会長 3点あったかと思いますが、1点目に関しては、デザイン会議のほうでも同様の意見が出て、若干リサーチを、周辺の建物のリサーチなどもしていただいているので、それも含めてご紹介いただければと思います。

○久米設計（井上） お答えいたします。

今、**後藤会長**のほうからお話ありましたとおり、デザイン会議でも話が出まして、4面、この広場に対して、どういうプロジェクトのビジョン、ビジョンというか将来性を考えているかというところで、今、スクリーンにあるんですけれども、当計画地のステージとビジョン、それを中心に、両面に同じようにビジョンが展開していくと。それは、区のガイドラインにもそういったポリシーがありますので、それに向けて実現していきたいという思いでまずやっております。

それにはいろいろシミュレーションを重ねておりまして、まず、この絵でいきますと、これ、いろいろ、例えばワールドカップですとか、オリンピックですとか、そういったビューイング的なものをぜひ実現できたらいいなというのが右の絵になっておりまして、左の絵は、そういう特定のイベントではなくて、ふだんからクジラがゆったりぐるーりと泳いでいって、環境映像のようなものがつながっていくとか、そういったものをイメージしております。

下にある断面、これ、見づらいんですけれども、いろいろご意見いただいている中で、ビジョンをできるだけ前に出したほうがいいのかということで、今のもとの位置より2メートル程度前に出す方向で、今検討を重ねています。今までごらんいただいているパースは奥まったほうのビジョンの位置になっておりますので、それはまず前に出していこうと考えております。

これが、上に黄色い帯が描いてあるんですけれども、少しわかりづらいんですけれども、4面の建物を、ヒューマックスさんですとか、東宝さんですとか、アパさんの建物をぐるーっと引き延ばして1枚の、今、絵に描いて、そこに、左側に当建物の断面図があるんですけれども、黄色の帯の部分というのがつまり今回の私どもの建物のビジョンの高さになるんですね。それが大体11メートル。下の高さで11メートル、上の高さで22メートルという範囲にビジョンがございます。それをぐるーっと回した場合ということで、今、絵を描いているんですけれども、

当計画のビジョンの高さを決めるときに、あの広場のサイズで、どの位置に立てば、どういう仰角で、どう見やすいかというのを綿密にシミュレーションしました。それでビジョンを決めて、最終的にそれが展開したときに、短手の方向で、例えばアパホテルとかヒューマックスさんとかを見たときにも見やすいということで高さを決めていきますので、そういった意味では、将来の可能性というところも十分考慮できたかなというふうに考えております。ビジョン、周辺の意識としては、そういうお話です。

それと、貫通通路の抜けの話です。

これは私どもも少し考え始めたところでして、13ページの配置図で、貫通通路、柱二スパン分、かなり広い形でとっております。もともと狭い貫通通路よりはしっかり人を通してあげたいという思いもあつてつくったんですけれども、ご意見をいただきながら、今ちょうど店舗が、縦長の店舗がアパの前にあるんですね、ピンクのやつ。それをもう少し貫通通路側に延ばしたりしながら、そういうショップフロントが出たり、少し人が滞留しそうなところとか、視覚的に、ただのボイドでないような形も考慮しながら、設計を今進めていこうと考えております。

ただ、約束している確保すべき空地の面積というのがございまして、非常にやりくりが難しいんですけれども、それを今綿密に計算しながら、どこまでどうやれるかというのを考えているところです。

○後藤会長 もう1点ありましたよね。

○久米設計（井上） エスカレーター部分は、やはりご意見いただいたとおり、少し違和感もあるといえますか、せっかく水というやわらかさで全体を表現しようとしている中で、そこだけ今浮いたような形になっておりまして、こちら内部でもいろいろ検討しながら、どちらかというところ、もう少しやわらかくそろえるような形を今狙っております。狙っているというか、目指しております。

○後藤会長 どうぞ、続けて。

○坂井委員 すみません、2点目については、さっきの災害時という避難の話もありますので、幅を、平面的、平面図的な幅を狭めるというよりは、立面のときに縦幅を少しというようなこともあるんじゃないかということです。

あと、1点目はわかりました。いろいろと考えていらっしゃるのはわかるんですが、やはり建築物に付随しているスクリーンというお話が多かったと思うんですね。今度、アーチとか、非常に大きく出てくるので、そのかたい部分と周りの建築ってということも、これからだ思うんですけれども、おいおい考えていただければと思います。これは意見です。

○後藤会長 ありがとうございます。

貫通通路っていう、まず名称がよくないよね。パッサージュかなんか、呼び方変えると発想変わっていくと思うんで。何かとにかく穴があいていればいいっていうのじゃまずいと思うんですよ。そのときに、やっぱり今あるショップのデザインをそのまま全部一度4スパンやって、その中に人が通り抜けられるようにしたほうがいいんじゃないですかね。ですから、漏れてくる明かりの質も全然違って見えちゃうんですね。何かバスターミナルの暗い印象に見えちゃうから、やっぱりきちんとにぎわいが光となって広場側に漏れてくるようにしておいて、そこに必要な幅員の通り抜けができるパッサージュをつくるという、そういう形で考えていただいたらいいと思います。

次、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○安田委員 幾つか意見が出ている中で、私は多分違う意見にいますんで、賛同は得られないかもしれませんが、参考にお聞きいただきたいと思います。

一つは、今出ている貫通通路というかパッサージュの件なんですけど、私は西武新宿の駅前通りをよく通るもんですから、昔からあの通りを歩いているときに、それ以外の歌舞伎町の中のイベントというか、そういうものとの連携が全くないなっていうのは常日ごろ気にはなっていたんですね。

この計画を拝見していて、その辺をどう解決されるかなということを見ていたんですが、ですから、そういう意味からいきますと、少なくともシネシティ広場からこの建物を通って駅前通りにつながる。それはビスタの広がりとか、通路でもいいんですけども、それをより有機的にどうつくられるかなということで、これ拝見しているんですが、いまいち全然イメージがちょっと正直湧かないので。私の誤解かもしれませんが、例えば1階、2階にこれ、貫通通路はあるんですけども、どう見ても1階と2階の視覚的なつながりって、これ余り考慮されていないような気がするんですね。そういう意味でのつながり感を持ちながら駅前通りに抜けるというアクセスがうまく成立しないかなと。その中でにぎわいが生まれるとか、そういうことも可能性あると思うんですね。

これ、ちょっと飛躍した意見かもしれませんが、西武新宿の駅というのはプラットホームが、あれは2階か3階、2階半ぐらいのレベルですずっときているんですね。私、西武新宿線も時々使うんですけども、あそこから駅おりて歌舞伎町方面へ行くアクセスってすごく限定されているんですよ。ですから、こういう建物、この一つの建物だけでは解決できないかも

しませんが、例えばこの貫通通路が、さらにスカイデッキとかそういうもので西武新宿のほうへつながっていけば、より有効なアクセスになるのではないかなというんで、そういう展開も本当は期待したいところです。

それともう一つ、最後にビジョンの話なんですけど、私、これ拝見していて、このビジョンは余りにもシネシティ広場と、ここでの屋外シアターで行うイベントに対しての意識が強過ぎるのかなという気がするんですね。てことは、スケールの、歌舞伎町のシンボルとなる建物にもかかわらず、非常に限定された、逆に、このシネシティ広場だけに限られているような気がしてしょうがないんですね。ですから本当は、そういうニーズに対しての設備としては、これはすごく有効だと思うんですが、本当は中段の、シネシティ広場側の中段、建物の中段ぐらいにもっと大きなビジュアルの情報発信の設備があってもいいぐらいには本当に思っているんですね。それが可能かどうかは別としても。ですから、もう少しこれからの時代に向けて、より大きな歌舞伎町の中心としての情報発信のツールとして、もっと生かせないかなというのが私のちょっと希望だったんですけども。

以上でございます。

○後藤会長 大きく2点あったかと思いますが、いかがでしょうか。

○久米設計（井上） ご意見ありがとうございます。

まず、貫通通路の件なんですけれども、西武新宿とシネシティ広場を結びたいという思いはまさにあって、ただ、おっしゃられるように、今余り有機的でなくて、デザインもまだ全然昇華していないですね。

もともと南と北に花道通りと、あと南側にも通りがあって、4面道路ですので、そちらを拡張しながら、今ある通りはしっかりつくってあげようというものに合わせて、さらに今回貫通通路をつくっていくという意識ですので、この3本をしっかりつくりたいと思っています。それでデザインも、これから昇華させながら、魅力的にしていきたいと思っています。ただ、空間のつくり方として、1階と2階をしっかりつなげるかどうかというのは、上と下との関係性とか、持たせる機能も多少違ってくるので、それはこれから考えていきますけれども、とにかく魅力的にはしていきたいと思っております。

それと、西武新宿駅とつながる話は、私どももぜひそうしたいというのがあって、今ちょうど西武新宿駅前通り側の2階にデッキを準備しております。そこに、駅側の開発がうまく進めば、そこからブリッジを渡せるようにという準備の工事をしておこうということで今考えておりますので、それは西武さん次第というところもありますけれども、そういったことは考えて

おります。

それとビジョンも、我々も、上のほうにつけたらまた違う意味でよくなるかなと、いろんなスタディをしながら、先ほどお話ししたとおり、まずは広場に対して一番見やすくということ考えております。いろいろな先生方からもご意見いただいたときに、今どきはもうプロジェクションマッピングとか建物全体をマッピングするような、そういったこともどんどんできるという意見もいただいていますので、そういったものも取り込みながら発信していければということ考えております。

以上でございます。

○後藤会長 秋田委員、どうぞ。

○秋田委員 ありがとうございます。

デザインについては、もう本当に**進藤相談員**がおっしゃったとおりなんですけれども、ちょっと補足で幾つかお伝えしたいと思います。

まず、先ほどご意見があったように、東宝のゴジラと向かい合わせの形になるので、今日も行ってきたんですけれども、やっぱり東宝ビルさんは黒くて暗いというか、そういうイメージがすごくありましたので、日本を代表する男性的なゴジラに対して、女性的でインターナショナルなこのビルっていう形で位置づければいいと思ったんですね。

デザイン方針が新時代のグランドホテルということで書いてあったんですけれども、つい最近、ジョージ・オーウェルの「パリ・ロンドン放浪記」というのを読んで、彼がグランドホテルの皿洗いの仕事みたいなのをしていて、そのホテルの様子が書かれているんですけれども、やっぱり1階部分というの、にぎわいは当然カフェであり、ビストロであり。その辺は、もしこういうグランドホテルというコンセプトを持たれるのであれば、意外と皆さん共通してそういう認識持てるのかなというふうに思いました。実際、このシネシティ広場も石川栄耀自身が西洋的な空間としてつくりたいというふうに、日本にないのは広場だということで作られたという経緯もありますから、例えば1階部分、シネシティ広場に面する部分というところは、そういうふうな使い方でもいいのかなというふうに思いました。にぎわいをどうやって形成するかということのを難しく考えるよりも、普通にグランドホテルであったようににぎわいの形というところを追求するというところもあるかと思いました。

と同時に、皆さんご指摘されていることなんですけれども、中景と遠景はいいんですけれども、やはり近景がすごく心配が多いというところだと思うんですね。今日、セントラルロードを歩いて東宝に行ったんですけれども、例えばセントラルロードに植栽もあるし、すごく頑張

ってハンギングバスケット、お花もあるんですけども、ほとんど目につかないんですね、実際歩いていると。ですので、本当にこのアイレベルでの景観というもののスタディを詳細にされると、皆さんの心配とかも大分減ってくるのかなというふうに思いました。そこが中途半端な中景というか、ところどころ舗装とかも出てくるんですけども、ちょっと目線でどんなように見えるのかってところが少しわかりにくいことと、その部分をカバーするために、もう少し植栽のディテールを入れていただきたいというのが希望です。東宝のあたりもかなり植栽が乏しい状況で潤いがなかなか感じられにくいので、**進藤相談員**からも話がありましたけれども、植栽の種類を工夫するか、花木を入れるとか、足元に植栽を入れるとかすることで、相当雰囲気も変わってくるのかなというふうに思いました。

以上です。

○**後藤会長** 何かご回答されることありますか。

○**久米設計（井上）** まさに、いただいたご意見、全部しっかりやっていきたいと思っておりますので、詰めてまいります。

○**後藤会長** ほかに。はい、どうぞ。

○**谷川委員** ご説明ありがとうございます。いろいろとまだ検討段階で、どんどん深化しているようで、楽しみです。

2点あります。

1点は、もう本当に要望なんですけれども、屋外ステージの可能性ってものすごく高いと思うんですね。近くでいいますと池袋の駅前のステージが、今年限りで多分もう廃止になってしまうということで、非常に残念がられている声も近所ですごく聞くんですね。そういう意味では、今度は新宿が、今までなかった駅前にこれだけの屋外ステージができるってことは、利用価値がすごくあると思うので、その空間等含めて、いろいろと実際に、本当に使えるものをご検討いただけたらと思います。それが1点です。

もう一点は、私の理解が悪いんだと思うんですけども、8ページのファサードのデザインの図があって、それで、中層部分の説明が一番右にあるんですが、「映画館のホワイエ部分へ窓を配置することで、シネシティ広場に賑わいを表出させ、広場と「見る－見られる」の関係性を構築」とあるんですけども、これと、それからこの絵で、ちょっと理解がよくできないのが、要するに、外から見ると中が透けて見えるっていう、そういう理解でいいんでしょうか。全体が実際にどの程度、透け感とか、外から見たときに見えるのかというのが、ちょっと図からイメージしづらいんですが、そこの説明が一つ。

それから、もう一つは低層部分の色なんですけれども、ここは多分中層部・高層部と素材が違うと思うんですけれども、どんな素材で、テクスチャーでもいいんですけれども、であって、あと色が、いろんなページ見ると、みんな写真なので、カラーコピーなので、いろいろ違うんですけれども、実際にはどんな色になるのか、ご説明いただければと思います。

○後藤会長 きょうはTMOはいらっしゃっていない。1番目の質問はTMOかもしれないね、答えるのは、本当は。

はい、どうぞ。

○久米設計（井上） ありがとうございます。

まさにステージのところ、運営と一緒に考えて、よりよくしていくところだと思いますので、今後も継続、一緒に検討していきます。

それと、中層部の「見る－見られる」のところですよ。立面図上、少し明るくなっているところはシネマのホワイエ空間なんですけれども、少し高い位置ですとか、そういったところに、まず人けがわかる。下から見て人けがわかる。それで、何かやっているぞとか、にぎわいがわかるというのを意図したのと同時に、今度、上から見たときに、ふだん立てないような位置関係から下の人たちを見おろすという、その相互のおもしろい関係をぜひつくりたいというのが、この「見る－見られる」の関係の構築ということになっております。やはり、人が見える、お互い見える、顔までは認識できないんですけれども、そういったことを意識して考えておりました。

渋谷のスクランブル交差点を海外の人が上から見たくてマークシティに上って見たりとか、それが名物になったりというのいろいろご意見でお聞きしたりするので、そういった名所になってほしいという思いもあったり、あと、やっぱりそういったものの連続がにぎわいかなというところがあるので、そういった意味でございます。

○谷川委員 いいですか、途中で遮っちゃって。すごくよくわかりました。外からこの建物を見たときに、言ってみれば壁面部分というか、そこはじゃ、透明、半透明。それが部分なのか、全部なのかって、その辺、見え方が知りたいんです。

○久米設計（井上） そうですね。画面で、9ページ、ちょっとわかりづらいんですけれども、今、基本的には透明のガラスに白いプリントでデザインをしていくというつくりになっているんですね。人が立つ部分、先ほど言ったような人を見せたいというところはまさに透明なんです。ただ、全体としてやわらかさを出したいので、柱の前ですとか梁の前になるようなところは白いプリントをします。そのプリントも透明から白にくっきり変わるというよりはグラデー

ション状で、透明がだんだん白くなるようなことを何とかできないかということで、今、技術検討しています。

上の写真は事例なんですけれども、どちらかという右の二つの写真が、透明のところからぼやっと白くなっていくような、かつての事例です。これをもう少し洗練させてやっていければと思っています。これがいわゆる中層部と高層部のところになります。

お話にもありました低層部が、今度7ページ目ですね。これが、ちょっとわかりづらいですけども、いろいろ近景の見え方を今検証しているんですけども、低層部の構えの部分は、アルミか何かでつくるんですが、面でびっしり埋まっているものというよりは、裏に透けるような、簡単に言うと網目のようなものが、本当の柱の1枚外についているんですね。それで少しやわらかさを出していくと。その網目も、ただのグリッドではなくて、例えば水をモチーフにした、デザインされた形の連続だったりというようなことを今やろうとしております。その裏に照明を仕込みながら、夕方ぐらいからふわっと明るくなって、まちをきれいに見せるというようなことをしたり、あとは色自体も、ちょうど先ほどご説明したように、中層部からは白を主体にしたやわらかさの表現になっておりますので、この基壇の低層部自体も少し色のついたものから、色自体をグラデーションに白く変えていって、上になじませていくというようなことで考えています。今日ご覧いただいたパース、どれも下が少し重く見える印象で、ちょっとご心配をかけているような気もするんですけども、現実的にはもう少し透けるような素材でつくっていきたいということで、今進めております。

以上でございます。

○後藤会長 柱の側面も、このアルミキャストを巻くの。

○久米設計（井上） そうです。

○後藤会長 巻くんですか。

○久米設計（井上） ええ。柱をぐるっと巻くので、ぺらっと張りついたというよりは、そういう囲んだ形に今しようとしております。

○後藤会長 わかりました。

○谷川委員 ありがとうございます。個人的には結構好きです。

○久米設計（井上） ありがとうございます。

○後藤会長 浅見委員、どうぞ。

○浅見委員 今のお話の中で、窓があって、下から見えるとか、上にいたときから下が見えるというのはおもしろい発想だなと思ったんですけども、専門的な建築の観点から、それが

可能かどうかはわかりませんが、そういうふうにお考えなら、スカイウオーク的な、そういうものがちょっと途中の階にあるとすごくおもしろいんじゃないかなと思うんですね。そういう、それが、ここ囲って、透明なようなものだったら、下から見てもおもしろいし、上から見てもおもしろいというのは、ちょっと出っ張って輪っかがついているような、そういうようなスカイウオーク的な道が考えていただけたらおもしろいんじゃないかなというふうに、今お話を伺いながら思いました。

それと、14ページのところのシネシティ広場っていうところの、「水が流れていくイメージを演出することで、歩行空間に潤いを創出」と書いてありますが、この絵で見ると、壁面に水が流れているようにできるのかもしれませんが、すごく無機質な感じがして、何かもう少し工夫をしていただけないかなって。大体通路というのはこういうふうには何も無い無機質な感じのところが多いので、そこにもう少しおもしろさがあつたらいいのではないかなというふうに思いました。

あともう一つ、新宿の歌舞伎町という、どうしても外せないのがごみ問題だと思うんですね。ビルの中はきれいに、もちろん清掃が行き届くと思うんですけども、新宿のまち全体として考えたときに、例えば大きなスクリーンが外に向けて、そういういわゆる公共の道路とか、そういうところに人がたくさん集まったようなときに、ごみとかそういうものをどうするのか。

昔、イギリスの田舎町のほうに行ったときに、道にすごく何か変わったオブジェがあつて、何だろうと思ったら、ごみ箱だったんですね。だから、まちに合うような何かごみを入れておくような。考え方としては、ごみ箱があるがゆえに、そこにごみがたまってしまうという心配ももちろんあると思うんですけども、この新しいまちに合うような発想ができるような、そういうオブジェ的なごみ箱があつたら、ちょっと楽しいなっていうふうに思いました。

以上です。

○後藤会長 いかがでしょうか。

○久米設計（井上） ありがとうございます。

最初のスカイウオークの件です。今、おっしゃられるように上のほうでいろいろ、まず、人が出られそうな場所とかを厳選しながら考えております。

ちょうど中段部の、8ページの全体のスケッチをごらんいただきますと、中段部のところに、まず人が行けるようなテラスを考えております。それとあと、上のほうはどちらかというともう少し専用のところなんですけれども、やはり人が景色を楽しめるようなところはつくっているんですね。これぐらいの高層ビルになりますと、上のほうで風の影響とか、あと、安全性

とかそういったものを加味しながら考えなくてはならなくて、なかなか、例えば低い手すりで見せてあげたいとかもいろいろ思うんですけども、結構重装備になったりするんですね。そういう中で、安全にとにかく今つくることを考えていて、そういう飛び出した形とかっていうのは、今のところは考えておりません。

それとあと、通路についても、本当に今、全体デザインが無機質なまま、ベーシックなデザインで今お見せしております。これを、やはり場所柄ももっともっと魅力的にしながら検討していきます。通路と水も、できればおもしろくしていきたいというふうに考えております。

そうですね、ごみについてはエリアマネジメントも含め検討していきます。建築的には、とにかく捨てたくないないように、きれいにつくっていくことがまず第一と思っていまして、ファニチャーですとか、活動ですとか、そういったことでエリアマネジメントと一緒に考えていきたいと思えます。

以上でございます。

○浅見委員 ありがとうございます。

○後藤会長 ほかに、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○安田委員 先ほどスライドで、アーチ部分の素材の説明のときにスライドで、メトロポリタンオペラハウスの写真が出てきたんで、あえて申し上げますけれども、あのアーチをこれはイメージとして捉え、同じに捉えているなとか思ったんですが、あのオペラハウスのアーチはリブが細いところがすごくいいんですよ。この8ページの全体のファサードのデザイン、特徴って書いてあるデザインを見ても、やっぱり割とこれスリムな細い線のイメージですよ。その辺を、オペラハウスほどではないにしても、もうちょっとそういう意味でいかし方を。はっきり申し上げて、これ、ちょっとぼてっとしていっているというのは皆さんお気づきだと思うので、そういうところももうちょっと考えていただければと思いますんで、あえて言いました。

○後藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 では最後に。

○後藤会長 はい、どうぞ。

○阿部委員 もう言い尽くされたので、あえて言うことはないと思っているんですが、どうしても1点だけですね。

初め、これ送られてきたときに、やはり商業ビルだなというのが第一印象で、おもしろくて

価値のないものと、おもしろくなくても価値のあるものってあるんですね。

たまたま8ページと15ページの、特に率直に言って、8ページ目のところで、ファサードのデザイン特徴でいいんですけども、例えば西新宿の超高層ビル群がグリッド形状で、「「ゴツゴツ」したファサードのオフィス」って書いてあるんですけども、私は「ゴツゴツ」という言葉はどういう意味で使ったかわからないんですけども、これが端正なファサードなんですね。「ゴツゴツ」、すごく何か2級、3級の建築群のような感覚がすごくありまして、それは翻って、自分の建物がそうだから、それを相手に与えたような印象は否めないんですね。

やはりトップの、中層と高層のところではグラデーション、波を、噴水というのはわかるんですけども、これは誰も、第三者、わからないですね、私に言わせると、はっきり言って。やはりこれは最も、いろんなスタディあると思うんですけども、これ、どういう段階の、乱数かなんかでやってこれを選んだのか、誰が決めたか知らないんですけども、これはすごく難しいと思います。それこそ建物が、大災害あって崩壊した建物かって見る人もいるかもしれませんし、それは要注意だと思っています。

それと、1階のファサードに関しまして、15ページ目のメインのシネマのところの、先ほど話に出ました、このアールはすごくデザイン難しいですね。スクリーンがあるので、今、上の帯状が、15ページ目の左側が東立面図は細いんです。残りは太いんですね、トップが。8ページ目は全部同じ太さで、ちょっとぶつといですね。それから、11ページ目の右下のところのイベントイメージというのは、細くなって上に上げています。ですから、多分揺れ動いていると思うんですね、スケッチ、どうしよう、こうしようって。でも、すごくやっぱりアール難しいと思うので、本当にアールでやるとなると、本当によほど注意していかないと、それこそ相手に放った言葉が自分に来て、とんでもない建物になったというふうに思われることもあり得ますので、要注意というふうに思いますので、それだけでございます。

○後藤会長 今現在検討している最新案をお示しいただけますか。

○久米設計（井上） こちらが最新案になっておりまして、まだ検討は続けておるんですけども、コーナーの丸みの検討ですとか、トップのそろえ方、それとフレームの細さの検討、そういったものを注意しながら今進めております。

以上でございます。

○後藤会長 デザイン会議でも相当同様の疑問が出されて、さっきのパスサーージュじゃないけれども、アーチって呼び方をもうやめましょう。力を支えている形ではないので、非常に表層の1枚、軽いものがまとわりついているようなデザインということなので、アーチって表現

をやめようというところから今スタディしていただいているんですが、結局、角丸のアーチを、これはそろえている案なんですね。もうアーチやめちゃってね。そのほうがまだすっきりはしている。要はスパンが違うので、構造のほうから出てきているスパンがばらばらなので、どうしてもそれをアーチでやると不思議な形の連続になってしまうので、いろいろご検討いただいたほうが良い部分だと思います。

ほかに。

では、**大浦委員**。

○大浦委員 僕、結論言いますとね、このビルは早くつくっていただきたいと思っています。個々には、皆さん方がいろいろ言われたことはごもっともだと思うんですけども、その検討事項を早くまとめて、できたら本当はオリンピックに間に合うぐらいだったら一番よかったんですね、2020年と。

それでちなみに、コマ劇場のところのあのビルは130メートル。今度できるのは225メートル。約100メートルぐらい高いビルだから、これはまさしく素晴らしいと思います。

かつて新宿は、新宿の東口から歌舞伎町に行くところが中心地だったです。ところが現在見てみますとね、西側に目を向けると西側の再開発、都庁ができたのを初め、いっぱいビルができました。今や、中野坂上あるいは杉並のほうに向かって、いろんなビルができています。何か新宿のにぎわいが向こうへ行っちゃうんじゃないかと。それと、南口に目を向けてみますと、バスターミナルのでかいのできて、それから、JRの本社ビルかな、あそこら辺にも何かできていて。それで、渋谷駅の再開発になっていると。西は向こうへ行っちゃう、東はまた渋谷のほうへとられちゃうような気がするんでね。その切り札になるのは、まさしくこのビルだと思うんですよ。こういうビルができればにぎわいも食いとめられるし、向こうへ行く。だから、早くこれをつくっていただきたいと思っています。

○後藤会長 ありがとうございます。

それでは、**松川委員**。

○松川委員 先ほどの、もう出たご意見に重ねているようなことになってしまうんですが、私はちょっと高所恐怖症ぎみなので、上のほうは余り使わないかもしれないと思いつつ図を眺めて。

やっぱり13ページのプランを見ますと、ほかのところもそうなんですけれども、みどりの設計というのがまだ全然できていないんじゃないかなと思うんですね。これから深化するのかもしれないんですけども、にぎわいのみどりをコンセプトに挙げていたり、それから、エリア

の特色を生かしたみどりとおっしゃっているんですが、このコーナーがどういう何か違いが出てくるのかとか、そういうことが全く今はわからない。今はですけれども、わからないので、やっぱり建物に一生懸命になる余りに地面をおろそかにしないでくださいねということを、お願いしたいと思います。

○後藤会長 植栽の方針は何かございますでしょうか。

○久米設計（井上） そうですね、本当に全部これからです。緑陰というものは大事にしたいと思っているんですけれども、陰をつくってあげる。ただ、これからですね。

あとは一つ、風を少しでも軽減してあげたいというのもございまして、そういったファクターも含めて、しっかりやっていきます。

○後藤会長 そのほか、いかがでしょう。

1点、私、人の動きを知りたいんですが、例えば800席の劇場がはねたら、人はどこから出てくるんです。2階からおりてくるの。

○久米設計（井上） そうです。2階から……

○後藤会長 2階までは……

○久米設計（井上） 階段、エスカレーター。

○後藤会長 エスカレーターで下がるんですか。

○久米設計（井上） 2階まではエスカレーターと、あと、中に階段があって、それも使っておりにきます。

○後藤会長 2階から、この屋外ステージの大階段をゆったりわーっと出てくる。

○久米設計（井上） はい、そうですね。途中でとどまる方もいらっしゃるながら、順次外に出ていく。

○後藤会長 その動きが見ていて楽しいような動きになるといいですね。

○久米設計（井上） なるほど、そうですね。

○後藤会長 このビルディングが心臓のように、人を吸い込んで人を送り出すようなところの動きがですね。

じゃ、この屋外ステージの階段というのは、その意味で言うと、通常は絶えず人が、映画がはねたり劇場がはねたりするたびに……

○久米設計（井上） そうですね、あるまとまった人数がわーっとおりたり、ばらばらおりたりと、そういったものになるので、そういう演出的要素だったり見せ方、そういったものも考慮していきたいと思います。

○**後藤会長** いずれにしろ、広場側に出てくるのはメーンの動線って考えればいいんですね。

○**久米設計（井上）** そうです。

○**後藤会長** わかりました。

ほかにいかがでしょう。

野澤先生、ご質問ないですか。

○**野澤委員** いいです。

○**後藤会長** いいですか。

ほかに、まだご発言ない方いらっしゃいますけれども、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○**土屋委員** すみません、感想で。ミラノ座って、やっぱり僕、アイススケートもボウリングも初めてやったところで、思い入れが強いんですけれども、だから、これが早くできてほしいって気持ち、わかります、今ある建物からしたら。

何か、あそこの広場にいると、人が休めないですね。車よけのところにこうやって皆さん無理やり座っているんだけど、中国の方たちなんか、旅行者の方も、どこでもべたべたべたべた座るんですよ。

そうすると、ここの屋外ステージの階段部分は、広場に対して、阿波踊りを見る栈敷席みたいな役割になっていくんだろうなと思うんですね。だから、**窪田委員**がおっしゃったみたいに、ここの階段の設計って意外とばかにできなくて。新宿の雰囲気からいうと、昔のテント芝居みたいのがあったりとかのにぎわいも含めて、音楽のコンサートもいいんですけど、何かそういう発表の場でありながら、人々が栈敷でなって、栈敷として使えるような、何かそういう階段、テラスのデザインってないかなと思うんですね。それがちょっと要望というか、いいものできてほしいと思います。

それから、水のデザイン、余り皆さんおっしゃるけれども、そんなに言わなくていいんじゃないですかね。僕はフリフリがついた何か女性の服のようなイメージで、かわいらしくて、これ、すごくいいなと思っています。それを無理やり水にこじつける必要ないんじゃないですかね。かえって何か、そこのこじつけ感が嫌いですね。

以上です。

○**後藤会長** 栈敷っていうキーワードが出てきましたけれども、それ、重要ですよ。栈敷席であったり、升席であったりするような、そういうものがアルコーブ状に組み込まれているようなイメージですね。

福井委員、和田委員、いかがでしょう。

○**和田委員** 私も早くつくる。例えば、いや、正直、これ、この地元のみんなそうなんです。

例えば以前、この審議会でも報告がありましたけれども、西口は損保ジャパンが美術館をつくる。それから今度、住友ビルにアトリウムをつくるとか。向こう、どんどんやっていますよ。

こちらは、正直言いますと、昔、ヤングスポットっていうときはすごくよかったですよ。シネシティ広場が変わってから、東亜はなくなり、ジョイパックなくなり、東急なくなり、東宝なくなり、何もなくなったんです。やっと再開発してきたんで、ぜひ。

ただ、正直言うと、もう一ひねり欲しいんですよ。水を流すといっても、例えば銀座にウォーターフロントビルもあるけれども、今、水なんか流していないですよ。先ほど、ミッドタウンへ行ったんですけれども、ミッドタウンの4階から見ると、日比谷公園がちょうど借景できれいに見えるように、こちらも、失礼ですけれども、大久保公園から望めるようにすればいいと思うんですよ。これだけ高いのは新宿でも最高の高さになりますから、御苑まで含めてちょっと考えていただくと。もう一ひねり欲しいですね。

ここで景観委員、昔、そうだ、**後藤会長**も、東大の西村先生が西口のモード学園、えらい反対してもめたときもあったんですけれども、今となっては全部、新宿としてはありがたい話で、やはりシンボルになるランドマークをぜひお願いしたいと思いますね。

○**後藤会長** ありがとうございます。

福井委員、いかがでしょう。

○**福井委員 大浦委員、和田委員**がおっしゃったように、やっぱり早くやってほしいなというのと、この歌舞伎町の広場に向かったの階段というのは、本当に大事なところだと思いますので、それを失敗しないように、きちっとやってもらいたいというふうに思います。うらやましいかなって、神楽坂としては。

○**後藤会長** ありがとうございます。

○**藤川委員** すみません。

○**後藤会長** はい、どうぞ。

○**藤川委員** すみません、意見で、ちょっと確認でお聞きしたいんですけれども、ちょっと裏の顔が見えないんですけれども、ホテルとか店舗の物品の搬入とかそういうのは、13ページでいうとバスの、空港バスと同じように花道通りから入るような形になるのでしょうか。

○**後藤会長** サービス動線。

○**久米設計（井上）** はい、おっしゃるとおりです。花道通りから入って、そのまますぐ地

下におりて。

○**後藤会長** 地下に行っちゃうんですね。地下から搬入。

○**藤川委員** ありがとうございます。

○**後藤会長** ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご報告ということでございました。次第の1、以上とさせていただきます。

事業者、設計者の皆さんはご退席いただければと思います。

*** 事業者、設計者、退室 ***

2. その他

○**後藤会長** それでは、2、その他でございますが、事務局よりご連絡をお願いします。

○**事務局（景観・まちづくり課長）** 事務局です。

本日、長時間にわたりまして、ご意見、ご質問いただきまして、ありがとうございます。

事務局から情報提供が1点ございます。お手元の机上配布させていただきましたA4の資料、「東京都都市整備局」と書かれたカラーの用紙でございますでしょうか。

はい、1枚です。1枚、表裏がございます。ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

現在、東京都のほうで東京都景観計画の変更について検討を進めてございます。このたび「東京都の景観計画変更（素案）」が公表されまして、意見募集が現在行われているということが、東京都のほうから情報が入ってございます。

お手元の資料でいきますと、変更の概要ということで2番目に書かれてございます。（1）から（5）までございまして、東京の景観特性の再構成、また、（2）夜間における景観形成に関する方針の追加等がございます。こちらにつきまして、現在、区のほうでも中身を確認しているところでございます。もしお時間のあるときにでも、こちらのほうをごらんいただければというふうに思います。

また、区の景観計画のほうで、もしこの影響で変更等がございましたら、当審議会におきましてご報告あるいは審議等をお願いすることになるかと思っております。そのときはまた改めてご報告したいと思っております。

次に、今回、今年の6月で景観審議会の委員の任期、2年の任期が満了となります。

今回、学識の委員の中から、**窪田委員**のほうからご退任の意向をお聞きしてございます。

窪田委員につきましては、平成18年から新宿区の景観行政にご尽力をいただいております。

大変突然で申しわけないんですけども、一言ご挨拶をいただけますでしょうか。

○**窪田委員 窪田**と申します。長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

本当にここで議論したことが、自分の研究といいますか、都市の見方みたいなどころにも非常に関係をしてきまして、**後藤会長**、それからその前の**進士会長**と、やっぱりここ、会長の先生がすごくみんなをまとめていけますし、あと、公募委員の区民の皆様がすごく自分の生活に根づいたご発言をされるし、あるいは、もう専門委員と言っていいかと思うんですけども、本当に専門の皆様、区民の皆様、そして学識の皆様と、すごくいい議論ができたなと思っております。

ただ、ちょっと私自身は、そこからもう一つ自分の学識としての立場をもう少し生かして、例えば、きちんと法制度のところまで何かコミットするとか、そういうことがちょっと今のところできていなかったなというのは大きな反省で、それは自分なりの課題としていきたいと思っております。

それから、今、個人としては、震災復興のまちづくりとか、あるいは原発被災のまちづくりっていうところをやり始めてというか、随分やり続けているんですけども、だんだんだんだん社会がその時点を忘れてしまっているなというのも思っていて、一度、そういうことをもう少し自分の真ん中に置いて頑張ってみようかなと思っております。

どこかでまた皆様とお会いできて、東京のまちづくりって何なのかとか、東京が世界に示せる未来って何なのかとかっていったあたり、何かフランクにお話しできるような機会があったら本当にうれしいなと思っております。

10年間、本当にどうもありがとうございました。（拍手）

○**事務局（景観・まちづくり課長） 窪田委員**、ありがとうございました。

続きまして、4名の公募委員の方々も今回で任期満了となります。現在、公募委員につきましては募集中でございます。中には、現在選考中の方もいらっしゃると思いますが、4名、全ての方からご挨拶をいただきたいと思っております。

まず初めに**阿部委員**、一言お願いします。

○**阿部委員 阿部**です。

後藤会長になりまして、いろんな議論ができたことがすごく糧になっています。**進士会長**の植物に関する知見、**後藤会長**の都市に対する知見も、両方頭に入れ込ませてもらいまして、すごくためになっておりました。

稚拙ではございますが、いろいろ勝手なこと言いまして、よろしく、ありがとうございました。（拍手）

○事務局（景観・まちづくり課長） ありがとうございます。

続きまして、**谷川委員**、お願いします。

○**谷川委員** 谷川でございます。どうもお世話になりました。

本当にいろいろの方と意見が交換できる、本当に、ああ、そういう考え方もあるのかとかね、そういう視点があるのかということ、私自身も勉強になりましたし、これだけいろいろな角度からいろいろな意見が出るってことが本当に大きく役に立っているんだろうなと思います。そんな中の一員とさせていただきまして、本当にありがとうございました。（拍手）

○事務局（景観・まちづくり課長） ありがとうございます。

続きまして、**土屋委員**、お願いします。

○**土屋委員** 何で大体委員に選ばれたのか、よくわからない。景観に関する自分の、どんなこと考えているかみたいなことをたしか面接のときに聞かれて、新宿、ごちゃごちゃしているのが一番好きなんですみたいなことをお話ししただけだったと思うんですが、ここへ出てきたら、物すごく皆さん方は専門的な用語を使われているんですね。何のことだって、さっぱりわからなかった。

でも、確かに景観に関することの審議だから、建物として、あるいは植栽のこと含めて、そういう言葉が出るのは当然だと思うんですが、民間委員の立場から言うと、最初にオリエンテーションしていただきたい。少なくともこういう基礎知識を持って、こういう視点からあなたの意見を言いなさいというようなことをちょっと方向づけてほしい。あなたが採用されたのはこういうことを言うてくれることを期待しているからだとか、何かしらあってからこの場に臨ませていただければ、もうちょっと何か役に立つこと言えたかなと思って、反省、忸怩たるものあります。

どうもお世話になりました。（拍手）

○事務局（景観・まちづくり課長） ありがとうございます。

最後に、**藤川委員**、一言お願いします。

○**藤川委員** 藤川です。ありがとうございました。

本当に数少ない機会だったんですけども、これからつくられる建物とかそういったことに関して、いろんな説明をいただいて、とても自分自身も勉強になりました。お話しいただくことも、やっぱりみんな考えていることは同じなんだとか、やはりいい景観を守りたいとか、

つくっていきたいっていうことをすごく考えているんだなということがとてもうれしく感じました。

私は、いろいろやはり新宿区の景観、景観ではなくて、景観・まちづくりだということで、それぞれの新宿区の、新宿の駅周辺だとか、四谷とか、早稲田とか、神楽坂とか、私が住んでいる落合とか、もうそれぞれ違ったまちの顔があって、違ったまちづくりをしていかなければいけないと思っています。そういうことを推進してくださっているお役所の方々とか、本当に新宿区ってすごいなというふうに誇りを持っています。

ありがとうございました。（拍手）

○事務局（景観・まちづくり課長） ありがとうございます。

改めまして、退任される委員の方々に深く感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

また、再任されるご予定の皆様、引き続きよろしくお願ひいたします。

最後に、事務連絡でございます。

本日の議事録につきましては、個人情報に当たる部分を除き、ホームページで公開いたします。

次回の審議会の日程につきましては、決まり次第、ご連絡をさせていただきたいと思ひます。

なお、景観事前協議の届出及び行為の届出について、勧告や変更命令を検討する事例が発生した場合は、急遽、審議会または小委員会を開催する場合がございます。また、景観施策についてご助言をいただきたい場合等につきましても小委員会を開催することとなります。その際はご連絡をいたしますので、よろしくお願ひいたします。

事務連絡は以上になります。

○後藤会長 どうもありがとうございました。

それでは、本日の審議会、以上で終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後 3時58分閉会